

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	R2605
代表機関名	名古屋大学
主担当研究者所属部局	大学院工学研究科
関連研究分野	結晶工学
主担当研究者	生田 博志
事業名	結晶科学の国際拠点形成ーバンドデザインによる機能融合ー

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり 7 名（准教授 2 名＝376 日、354 日、助教 3 名＝370 日、331 日、318 日、ポスドク 1 名＝326 日、その他（主任研究員）1 名＝385 日）を派遣した。 ・計画していた 7 名の招へいに対し、最終的に 8 名の招へいとなった。 ・派遣・招へいとも概ね計画通りもしくは計画を上回る活発な人的交流が行われている。若手研究者が派遣をきっかけにさらに複数の他機関の研究者との共同研究を開始する例もあり、国際交流が十分に効果的に行われたと認められる一方、招へいは情報交換・意見交換に止まっている印象であることは残念である。 ・名古屋大学の有する強みである結晶工学に関する材料調製、評価、デバイス設計分野に関し、広範な連携ネットワークが形成され、連携機関の外にも広がっている。 ・目標に挙げられていた「結晶科学の世界標準となる書籍」の出版、「結晶科学の国際ワークショップ」の開催について報告書には記載がなく、今後の努力が期待される。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画時の研究計画に基づいた成果に加え、派遣中のディスカッションに基づいた研究も実施し、連携機関との共同研究による論文発表は 12 編（その他の国際共同研究で 7 編）、口頭発表 15 件（その他の国際共同研究 4 件）である。 ・事業期間内に新たな融合デバイスを具体的に提案するとの目標に関して、具体的な成果が述べられていない点は残念である。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 4
コメント

・若手研究者の派遣によって構築されたそれぞれの研究領域でのネットワークにおいて、多くの成果を得て個別の共同研究を継続するとともに、研究の継続・発展の具体的な展望が示されている。また、本事業で派遣された若手研究者の准教授が教授に昇進するなど、今後、ネットワークの核となる人材が育成できていることは、今後の継続的発展が期待でき評価できる。

・組織として国際ネットワークのハブとなるためには、計画調書で述べられていた「結晶科学の世界標準となる書籍」の出版、「結晶科学の国際ワークショップ」の定期的な開催、さらに「国際共同研究センター」の早期の設立が重要であり、努力の継続による実現が期待される。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

・本事業の根幹である「個々の要素技術は高いがそれらを統合して新たなデバイスを提案する能力で遅れをとっている」という問題意識の下で、結晶工学に関する材料調製、評価、デバイス設計分野に関し、効果的に国際研究交流をやり遂げ、広範な連携ネットワークが形成され、さらには連携機関の外にも広がっており評価できる。

・「事業期間内に新たな融合デバイスを具体的に提案する」という点について具体的な成果が述べられていない点は残念である。

・拠点のセンター化などの展開が検討されており、今後の発展を期待できるほか、国際研究センターの設立などの組織的な取組が期待される。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない